



図4. 各コースの走距離, 最高酸素摂取量, 12分間走距離の相関

表2. 被検者の感想

	往復コース (20m)	長方形コース (20m×15m)	円コース (半径7.5m)
埼玉リハ	<ul style="list-style-type: none"> 直線が短いのでスピードに乗れない。(2名) (センターでは25mの往復のため) ターナーが多くて疲れる。(1名) 全力と減速の繰り返しが続くためスピードを落とすしてしまう(7割くらい)。(1名) 長方形コースよりも走りやすい。いつも慣れているから。(2名) 25mよりも走りにくい。(2名) 長方形コースの方が走りやすい。(3名) 減速のタイミングが難しい。(1名) 	<ul style="list-style-type: none"> ターンの角度が小さく走りやすい。(2名) 一番走りやすい。(7名) 往復コースの方が良い。(1名) コーナーが難しい。(2名) ペースが取りづらい。(2名) 	<ul style="list-style-type: none"> 一番走りづらい。(10名) 左利きなので、利き腕が使えなく大変。(1名) 直線なくて辛い。(2名) 操作能力が結果に影響するのでは。(1名) 坐位バランス取りにくい。(2名) 片腕に負担がかかる。(5名) スピードが落ちないのは良い。(1名) 右肩が痛い。(1名) 腰が痛い。(1名) 左肩が痛い(非駆動側)。(1名)
神奈川リハ	<ul style="list-style-type: none"> 直線が長いほど楽である。 ターナーがきついほど差がでる。 8の字にしたらどうか。 5分は疲れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2分30秒からきつい。ながした。 コーナー以外はこいでいるだけで良いから楽。 スピードが落ちないからペースをつかみやす。 コーナーでスピードが落ちない。 最もスピードがでる。 5分は疲れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一番つかれた。 絶えず両手を動かす必要がある大変。 左右の手を遣う動きをさせる。 外側に振られる。 片方の腕だけ疲れる。 体が体が逃げていく。 途中でやすみたかった。 途中逆回りしたかった。 ペースをつかめない。 5分は疲れる。
兵庫リハ	<ul style="list-style-type: none"> ターナーが苦手なので走りにくかった。 距離が短い。 走りやすかった。(2名) ターナーがしづらかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 走りやすかった。(2名) コーナーが曲がりにくかった。 コース設定に問題があった。 走りにくかった。(1名) 	<ul style="list-style-type: none"> 右手ばかりでこぐので走りにくかった。 走りにくい。 身体が傾いて走りにくい。 力がいらない。

表3. 検者の感想

埼玉リハ	<p>長方形コースが走りやすいと思う(ターンの角度小さく、スピードが落ちないため)。 長方形・円はコース設定の場所を取るのが問題。また、一度に多くの対象者が実施できない。一人で走ると大変で走るのは結果が大分異なる可能性あり。 直線は長ければ長いほど良いと思う。</p>
------	--

DEVELOPMENT OF NEW DEVICE TO SKI FOR HEMIPLEGIC PERSONS

Tsutomu Abe, Taketo Furuna, Kesayoshi Sakai (Tokyo Metropolitan, Geriatric Hosp. & Inst. of Gerontology, Japan), Ken Hashizume (Osaka Univ., Japan), Hajime Ito (Ibaraki Prefectural Univ. of Health Science, Japan), Hitomi Oyanagi (Niigata Chuou Hosp., Japan), Kazuyuki Uehara (Muikamati Hosp., Japan) and Syoichi Tsuchida (Tsurumaki Onsen Hosp., Japan)

Since 1984, we have conducted annual ski-tour for hemiplegic persons with some medical staffs. In order to reduce excessive movement of a pair of skis, we have used a device, named "top-brace", which was attached to the top of skis and was linked each other. The primary purpose of this report was to introduce a new device and its effect on skiing. The device, named "tail-brace", was developed so as to connect a pair of skis at a point of their tail. Using the "tail-brace" with a "top-brace", persons with hemiplegia were able to keep their posture stable under wedge stance and to keep a safety speed at skiing. We think a "tail-brace" is effective for hemiplegic persons to learn and enjoy skiing easily and safely.

片麻痺者用のスキー補助具の開発

阿部 勉, 古名丈人, 坂井袈裟芳 (東京都老人医療センター, 同老人総合研究所, 日本), 橋詰 謙 (大阪大学, 日本), 伊東 元 (茨城県立医療大学, 日本), 小柳ひとみ (新潟中央病院, 日本), 上原数之 (六日町町立病院, 日本), 土田昌一 (鶴巻温泉病院, 日本)

私達は年一回の片麻痺者のためのスキーツアーを1984年以来実施している。片麻痺者のスキー板が過度に動かないように、これまでスキー板同士を先端でつなぐ補助具 (top-brace) を使用してきた。本報告の主な目的は、新しい補助具の開発とその効果について紹介する事である。「tail-brace」と名付けた補助具は、スキー板同士テールの部分で連結するために製作された。「top-brace」と共に「tail-brace」を使用することによって、片麻痺者は安定した姿勢 (ハの字) と安全な滑走速度を保つことが出来た。「tail-brace」は、片麻痺者が安全にそして簡単にスキーを学習し楽しむことに効果があると考えられた。

19980075

これ以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

村井正直. 日本乗馬療育インストラクター養成学校開校ー北海道・浦河町ー.
馬の雑誌 ホース・メイト 1998.7;24:29-32.

滝坂信一. 新しい領域に生きる馬たちードイツにおける「治療的乗馬」の世界(2).
馬の雑誌 ホース・メイト 1998.7;24:24-6.

伊佐地隆, 矢部京之介. 障害者の体力評価ー脊損対麻痺者を対象とした評価方法の検討ー.
リハビリテーション医学 1998.11;35(11):783-4.

伊佐地隆, 大仲功一, 安岡利一, 太田仁史, 木檜晃. 片麻痺患者の筋持久力についてー第4報:全身持久力との関係ー.
リハビリテーション医学 1998.11;35(12):1007.

滝坂信一. 新しい領域に生きる馬たちードイツにおける「治療的乗馬」の世界(3).
馬の雑誌 ホース・メイト 1998.11;25:16-18.

周博一. 在来馬をめぐる雑感.
Hippophile 日本ウマ学会ニュースレター No.2:24-31.

菊田ほそ香, 堀浩, 増井光子. 木曾馬(*Equus caballus*)の初期調教における行動観察.
ヒトと動物の関係学会第5回学術大会;1999.3.21-22;東京. 同予稿集. p.26.

増井光子, 堀浩, 山谷吉輝. 大学における木曾馬を用いた障害者乗馬の実習.
ヒトと動物の関係学会第5回学術大会;1999.3.21-22;東京. 同予稿集. p.27.

本好茂一, 近藤誠司. 地域での馬の利活用への取り組み.
畜産技術 1998.11;(522):23-30.

本好茂一, 近藤誠司. 地域での馬の利活用への取り組み.
畜産技術 1998.11;(522):23-30.